

## 令和 6 年度補正予算措置分 研究開発と Society 5.0 との橋渡しプログラム (BRIDGE) の実施方針

令和 7 年 1 月 23 日  
ガバニングボード決定

「科学技術イノベーション創造推進費に関する基本方針」(平成 26 年 5 月 23 日 総合科学技術・イノベーション会議決定(最終改正:令和 4 年 12 月 23 日))及び「研究開発と Society 5.0 との橋渡しプログラム運用指針」(平成 29 年 5 月 25 日ガバニングボード決定(最終改定:令和 4 年 12 月 23 日))に基づき、令和 6 年度に実施する研究開発またはシステム改革に資する事業について、対象施策、対象施策への配分予算額及び対象施策の実施期間を次のとおり定める。

**1. 研究開発型****生成 AI の安全性確保に関する研究開発・検証等の推進****対象 7 施策 配分額計: 140.1 億円****(1) 重点課題別の対象施策数** (注)

- ① SIP や各省庁制度による研究開発成果の社会実装・市場開拓の加速化: 7 施策
- ② 他の戦略分野等との技術の融合による研究開発: 7 施策
- ③ スタートアップによるイノベーションの創出・促進: 1 施策
- ④ 産学官を挙げた人材の育成・確保: 0 施策
- ⑤ グローバルな視点での連携強化: 0 施策

注) 複数の重点課題に対応する施策があるため、合計数は施策の総数と一致しない。

**(2) 重点課題に基づく施策**

重点課題	対象施策	概要	府省庁名	配分額 (億円)	事業期間
①、②	AI 安全性強化に向けた LLM 生成テキストの検証・分析・改善等支援技術の研究開発	生成 AI (LLM) の普及により、生成テキストに誤情報や矛盾が含まれる場合があるため、その正確性を確保する技術が必要である。本研究開発では、信頼性の高い情報源を活用し、生成テキストの根拠や矛盾を検証・改善する技術を開発する。意味的・論理的関係を考慮した技術を開発し、RAG 技術の限界を補完しつつ生成 AI の安全性を向上させるとともに、SIP「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」を加速することを目指す。	総務省	19.7	令和 6 年度 ～ 令和 7 年度
①、②	個人情報・公的情報等を安全に活用可能な被災者支援 AI サービス開発基盤	災害時の被災者支援には、個別事情に応じたきめ細やかな対応が求められるが、自治体の人員不足が課題である。生成 AI を活用した業務プロセスの転換が期待される一方で、誤情報生成や個人情報保護の課題を克服する技術開発が不可欠である。本取組では、誤情報等の混入を防止した防災特化型 MRAG を開発し、個人情報を保護しつつ安全に活用できる被災者支援 AI サービス開発基盤を構築する。これにより、災害対応の効率化と支援サービスの	文部科学省	42.6	令和 6 年度 ～ 令和 7 年度

		抜本的改善を実現するとともに、SIP「スマート防災ネットワークの構築」の加速を目指す。			
①、②	生成 AI を活用した大規模沖合養殖業の省力化及び自動化の推進に係る研究基盤の整備	養殖業従事者の減少を背景に、大規模沖合養殖が持続的な養殖業の鍵として注目されている。SIP「豊かな食が提供される持続可能なフードチェーンの構築」では、次世代型養殖システムの構築に向け、給餌や健康管理の最適化・自動化、ICT・AI を活用した海洋環境モニタリング技術を開発中である。本取組では、生成 AI を活用し、収益向上を目指した生産計画の最適化や統合的提案技術を開発する。生成 AI 活用に伴うリスクを回避するため、安全性確保の技術開発・実証を進め、SIP 事業を加速する。また、赤潮対策や有害プランクトンのモニタリング技術を強化し、沖合養殖の安全性と持続可能性を高めることを目指す。	農林水産省	4.0	令和 6 年度 ～ 令和 7 年度
①、②	AI セーフティ強化に関する研究開発構想	各国で AI セーフティ・インスティテュート (AISI) が設立され、国際的な議論が進展している。わが国でも第 7 回 AI 戦略会議を受けて AISI を設立し、国際議論に参画している。本事業は、官民一体の取り組みを研究開発面から支援し、生成 AI の安全性評価技術を開発することを目指す。具体的には、リスクベースアプローチに基づく AI セーフティの評価・管理基盤技術、応用領域別の評価手法とテスト環境の構築、国際標準化に向けたガイダンス整備などを実施し、AI の安全な活用を支える基盤を構築する。	経済産業省	15.0	令和 6 年度 ～ 令和 7 年度
①、②、③	日本語版医療特化型 LLM の社会実装に向けた安全性検証・実証	医療特化型 LLM は、安全性の高いモデルの開発が重要であり、スクラッチ開発やオープンモデルへの追加学習など、複数のモデルを構築しそれらの比較を行うことで、医療現場で安心して利用できるモデルを検証する。これには、プライバシー保護、有害・誤情報出力の制御、セキュリティ確保、ロバスト性向上などが含まれる。また、電子カルテ作成支援や患者への適切な検査提案といったリアルタイムの医療業務補助を通じ、医療分野の生産性向上を目指すための検証・実証を進める。	経済産業省	52.5	令和 6 年度 ～ 令和 7 年度
①、②	AI 安全性確保に関する調査・分析・普及展開事業	各国 AISI とのネットワークを活かし、国内外の最新技術を含め、AI 安全性に関する動向を調査し、AI 安全性に係る各国の政策、ツール開発、ルール形成等の状況把握、分析を行う。また、BRIDGE の各省事業の実施状況、成果などについて情報交換を行いながら、各事業における AI 安全性に関する評価手法等を策定する。	経済産業省	3.8	令和 6 年度 ～ 令和 7 年度
①、②	インフラの事故対策に活用する生成 AI の技術開発実証	生産年齢人口の減少や気候変動による災害の激甚化、インフラ老朽化の課題に対応するため、インフラ施設の建設・維持管理における抜本的な省人化や高度化が求められている。その解決策として生成 AI の活用が注目されているが、人命に関わる事故リスクを踏まえた安全性の検討が不可欠である。本施策で	国土交通省	2.6	令和 6 年度 ～ 令和 7 年度

		<p>は、生成 AI のリスクを評価するとともに、インフラ施設の高度化を可能とする生成 AI 活用技術やシステムを開発・実証する。SIP「スマートインフラマネジメントシステムの構築」で進められている劣化・損傷リスクの予測研究を、生成 AI による異常検知、更新優先度の把握、作業自動化を通じて加速させる。また、誤情報や不適切な情報混入を防ぐ技術を開発・実証し、安全かつ最適な補修・補強の実現を目指す。</p>			
--	--	--	--	--	--

注) 対象施策の配分額を億円単位で表示するため小数点第 2 位を四捨五入しており、配分額合計と一致しない場合がある。

## 2. システム改革型

### スタートアップ・エコシステム形成推進事業

配分額：20.7 億円

対象施策	概要	府省庁名	配分額 (億円)	事業期間
グローバル・スタートアップ・アクセラレーションプログラム	<p>スタートアップの創出を促進する拠点都市（※）を中心に、スタートアップの海外市場展開を支援するとともに、スタートアップ・エコシステム拠点都市及びバイオコミュニティの機能強化の取組等を推進する。</p> <p>（※） 内閣府が実施する「Beyond Limits. Unlock Our Potential. 世界に伍するスタートアップ・エコシステム拠点形成戦略」に係るスタートアップ・エコシステム拠点都市。グローバル拠点都市 4 拠点（東京圏、名古屋・浜松、関西圏、福岡）及び推進拠点都市 4 拠点（札幌、仙台、広島、北九州）。</p>	経済産業省	20.7	令和 6 年度 ～ 令和 7 年度